



*トルソ、或いはチャーハン #8*2023 ©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates.

富井大裕・堀内正和 「拗らせるかたち」

会期：2023年6月17日（土） - 8月5日（土）

*6月17日（土）18:00-20:00にオープニングレセプションを行います。

会場：Yumiko Chiba Associates

東京都港区六本木6-4-1 六本木ヒルズ ハリウッドビューティープラザ 3F

営業時間: 12:00-19:00 定休日: 日、月、祝日

トークイベント: 六本木アルスクーリア トークイベント Vol.5 *事前申込制

登壇者: 富井大裕、金氏徹平、菊川亜騎（神奈川県立近代美術館学芸員）

モデレーター: 森啓輔（千葉市美術館 学芸員）

日時: 2023年7月22日（土）18:00-20:00（受付開始 17:45-）

会場: ハリウッドビューティープラザ 4F（東京都港区六本木6-4-1 六本木ヒルズ）

※詳細は追って弊廊HPなどにてご案内いたします。

このたび、ユミコチバアソシエイツでは、戦前から戦後にかけての日本の抽象彫刻の歴史に重要な足跡を残した堀内正和（1911-2001）と、現代日本の彫刻を牽引する富井大裕（1973-）の二人展を開催します。

本展では、堀内の彫刻やデッサン、関連資料などをあつめ開催された前回の弊ギャラリーでの個展に続き、堀内の作品を展示します。富井との二人展となる本展は、出品作家である富井自身のキュレーションにより開催されます。

富井はこれまで、主に日用品などの既製品という「具体物」「具象物」を用いた彫刻をつくりあげてきました。しかし、富井は、それらを組み合わせることによって、それまで意識されていなかったモノの線や面などの抽象的な「かたち」を抜き出し、それを生き生きと展開させることで、独自の「抽象」性をもつ彫刻をつくりあげてきたともいえます。

近代から現代に至る彫刻の先駆けとして、いまは亡き堀内が展開した抽象彫刻と、富井の彫刻がならべて展示されることによって、両者のあいだにどのような応答と対話がなされるのか、ぜひご注目ください。

ぜひ高覧ください。



■アーティストステートメント

堀内正和さんの作品は「気になる」。「好き」ではない、気になるのだ。見よう、という作品ではない。気がついたら見ていた、という作品である。こういった作品、作家と出会う機会は少ない。思うに、そういう作家は私にとって「どこか近い作家」ということなのだろう。自分のことなんてそうそうわかるものではないが、感覚は私のことをわかっている。私の感覚が、私に堀内さんの作品を見せているのだ。だから、私は堀内さんの作品が気になっている。

堀内さんと私の作品を同じ空間に展示する機会を得た。過去にも一度だけそういう機会はあったのだが、今回はガチンコだ。仲良く肩を並べて、とはならないだろう。とはいえ、ファイトクラブ的な(懐かしい)凄惨なものにも多分ならない。なんとなくだが、狐と狸の化かし合い、虚実の入り混じる差し合いになれば、と目論んでいる。

堀内さんの印象を記した。敢えて整えることはしない。散発な記述も堀内さんに近づくための方法だと思うからだ。「どこか近い」ということは、私についてのことなのかもしれない。

線と面を仮説として(移動するものとして)捉え直す。線→面ではなく、線=面。
線が面であるかもしれない、面は線であるかもしれない。
簡単な入れ替わり、ではなく、線が線でありながら面の可能性を持ち、面もまた同様に。
その実験道具として「点」がある。

シンプルだがややこしい構造をそのままの鮮度で見せる詐術として、あっけらかんとした空間の抜けがあり、ユーモラスな反復がある。

歯医者に行って噛み合わせを治したとする。噛み合っているはずなのに、なぜか口の中がしっくりこない。
歯を動かして噛み合わせを確認している時、私は口の中をたしかに見ている。
構成とはそういうものかもしれない。

抽象は具象である。
見えたままという「わからなさ」を現していることにおいて。

トリックはない。見えたもの(こと)が見たもの(こと)だ。

堀内さんの造形にはこの様な射程がある。
それ故に、堀内さんの彫刻は彫刻をこじらせている。

富井大裕

■関連情報

【トークイベント】

六本木アルスクーリア トークイベント Vol.5

登壇者：富井大裕、金氏徹平、菊川亜騎(神奈川県立近代美術館 学芸員)

モデレーター：森啓輔(千葉市美術館 学芸員)

日時：2023年7月22日(土)

会場：ハリウッドビューティープラザ 4F (東京都港区六本木 6-4-1 六本木ヒルズ)

※詳細は追って弊廊HPなどにてご案内いたします。

登壇者・モデレーター プロフィール

金氏徹平

1978年京都府生まれ、京都市在住。

2001年京都市立芸術大学在籍中、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(ロンドン)に交換留学。2003年京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修了。現在、同大学彫刻専攻准教授。

日常の事物を収集し、コラージュの手法を用いて作品を制作。彫刻、絵画、映像、写真など表現形態は多岐にわたり、一貫して物質とイメージの関係性を顕在化する造形システムの考案を探究。個展「消しゴム森」(金沢21世紀美術館、2020)、「金氏徹平のメルカトル・メンブレン」(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2016)、「四角い液体、メタリックなメモリー」(京都芸術センター、2014)、「Towering Something」(ユールニス現代美術館センター、2013)、「溶け出す都市、空白の森」(横浜美術、2009)など国内外での展覧会のほか、舞台美術や装丁も多数。あうるスポットプロデュース「家電のように解り合えない」(2011)、KAATキッズ・プログラム2015 おいしいおかしいおしばい「わかったさんのクッキー」(2015-2016)、KYOTO EXPERIMENT 2019 チェルフィッチュ x 金氏徹平、「消しゴム山」(2019)、チェルフィッチュ x 金氏徹平「消しゴム森」(金沢21世紀美術館、2020)での舞台美術をはじめ、自身の映像作品を舞台化した「tower (THEATER)」(ロームシアター京都サウスホール、Kyoto Experiment 2017)では演出を手掛ける。作品は横浜美術館、森美術館、東京都現代美術館、国立国際美術館、金沢21世紀美術館、Queensland Art Gallery & Gallery of Modern Art (オーストラリア)など国内外の主要な美術館にコレクションされている。

**菊川亜騎（神奈川県立近代美術館 学芸員）**

大阪大学文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。

2019年より現職。専門は日本を中心とした近現代美術史、彫刻史。彫刻における抽象概念の成立について美術史から読み直し、堀内正和を起点に研究している。主な展覧会は「美しい本—湯川書房の書物と版画」（神奈川県立近代美術館、2022）「生誕110年 傑作誕生・佐藤忠良」（同、2023）「イメージと記号—1960年代美術の諸相」（同、2023 予定）など。

また京都市立芸術大学芸術資源研究センター重点研究プロジェクト「京都美術の歴史学」代表を務め日本美術史における地域的な中央／周縁の問題について共同研究を進める。

森啓輔（千葉市美術館 学芸員）

1978年三重県生まれ。

武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程修了。ヴァンジ彫刻庭園美術館学芸員を経て現在、千葉市美術館学芸員。専門は日本近現代美術、美術批評。高松次郎、もの派を中心とした1960-70年代の美術動向の研究と並行して、絵画、彫刻に関する現代美術作家の展覧会を企画・担当。近年の主な展覧会に「三沢厚彦 ANIMALS/Multi-dimensions」（千葉市美術館、2023年・予定）、「特集 若林奮」（同、2023年）、「生誕100年 清水九兵衛／六兵衛」（同／京都国立近代美術館と共催、2022年）、「特集 吉澤美香」（同、2021年）、「宮島達男 クロニクル 1995-2020」（同、2020年）など。

【展覧会】**「富井大裕展 みるための時間」**

会期：2023年 6月 6日（火）～ 7月 17日（月）

場所：新潟市美術館 企画展示室

詳しくは：<http://www.ncam.jp/exhibition/7213/>

■関連イベント 【アーティストトーク】

「みるための時間について話す時間」

日時：2023年 6月 25日（日）

時間：午後 2時～（1時間 30分程度）

講師：富井 大裕（本展出品作家、美術家）

会場：新潟市美術館 2階講堂

※聴講無料、定員 80名（先着順・申込不要）

「担当学芸員によるギャラリートーク」

日時：6月 10日（土）、7月 9日（日）

時間：各日午後 2時～（30分程度）

※要当日観覧券

「今日の彫刻 -富井大裕展 —— トルソ、或いはチャーハン —— 」

会期：2023年 7月 8日（土）～ 9月 3日（日）

場所：栃木県立美術館 企画展示室

詳しくは：<http://www.art.pref.tochigi.lg.jp/exhibition/t230708/index.html>

■関連イベント 【アーティストトーク】

日時：2023年 7月 8日（土）

時間：午後 3時 30分～

会場：栃木県立美術館 企画展示室

※要当日観覧券



■アーティストプロフィール

冨井 大裕 (Motohiro Tomii)

1973 新潟生まれ
1999 武蔵野美術大学大学院造形研究科彫刻コース修了
2015-16 文化庁新進芸術家海外研修制度派遣研修員としてニューヨーク（アメリカ）に滞在

<主な個展>

- 2023 「今日の彫刻 - 冨井大裕展 Motohiro Tomii: Sculptures ートルソ、或いはチャーハン」 栃木県立美術館(栃木)
冨井大裕・堀内正和 二人展「拗らせるかたち」 Yumiko Chiba Associates(東京)
「冨井大裕 みるための時間」 新潟市美術館(新潟)
- 2021 「線を重ねる」 Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku(東京)
- 2020 「メロー」 KAICA 東京 by THE SHARE HOTELS(東京)
「斜めの彫刻」 Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku(東京)
「紙屑と空間」 Art Center Ongoing(東京)
「一寸」 照恩寺(東京)
「動き」 switch point(東京)
- 2019 「彫刻になるか? -ノート、簾、BAR」 マツモトアートセンターGALLERY、awai art center; kulwa(長野)
「素描、彫刻」 HIGURE17-15cas(東京)
「泊まる彫刻」 RCHOTEL 京都八坂(京都)
- 2018 「線を借りる」 void+(東京)
「コンポジション -モノが持つルール-」 ATELIER MUJI(東京)
「関係する/Interact」 (PLACE) by method(東京)
- 2017 「turn」 Art Center Ongoing(東京)
「スケッチ」 代田橋 納戸、gallery DEN5(東京)
「像を結ぶ」 Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku(東京)
- 2015 「粘土の為のコンポジション」 Yumiko Chiba Associates viewing room Shinjuku(東京)
- 2014 「SHOW-CASE project No.1: 3 個の消しゴム」 慶應義塾大学アート・センター(東京)
「デイリーコンポジション」 Art Center Ongoing(東京)
「繊維街 日本橋」 NICA(東京)
「SHOW-CASE project No.0: Blind Composition」 慶應義塾大学アート・センター(東京)
- 2013 「直線と周回」 switch point(東京)
「繊維街」 N-MARK B1 ギャラリー(名古屋、愛知)
- 2012 「combine -still-」 Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku(東京)
「Kart Invitation Program Vol.3 つくるとの理由」 Gallery Kart(東京)
「衣服」 switch point(東京)
「4 つの仕事」 Art Center Ongoing(東京)
- 2011 「taking bump」 switch point(東京)
「5×14」 NADiff Window Gallery(東京)
「色と形を並べる」 ラディウム-レントゲンヴェルケ(東京)
- 2010 「鉛筆のテーブル」 switch point(東京)
「つくるために必要なこと」 金沢美術工芸大学アートギャラリー(石川)
「ball pipe ball」 玉川大学 Tamagawa Art Gallery Projects(東京)
「STACK」 NADiff Gallery(東京)
「作品展」 NADiff A/P/A/R/T 店内(東京)
「catch as catch can」 現代 HEIGHTS Gallery DEN(東京)
- 2009 「新作展」 switch point(東京)
「かみの仕事」 Art Center Ongoing(東京)
「copy boy」 ギャラリー現(東京)
- 2008 「みるための時間」 switch point(東京)
「身の回りのものによる色とかたち」 遊戯室（中崎透+遠藤水城）(茨城)
「企画展=収蔵展」 アーカス・スタジオ(茨城)
- 2007 「みるための時間」 武蔵野美術大学美術資料図書館・民俗資料室ギャラリー(東京)
「αm プロジェクト1 ON THE TRAIL vol.2」 art space kimura ASK?(東京)
「まると四角」 switch point(東京)
「世界のつくりかた」 art & river bank(東京)
- 2006 「出会い直し」 switch point(東京)
ギャラリー現(東京)
- 2005 「仮眠的」 中崎透遊戯室(東京)
「空白の作り方」 U8 Projects(愛知)
CAS(大阪)
- 2004 「いつものこと」 switch point(東京)
「荷物 baggage」 switch point(東京)
シリーズ展「THE COVER」 ZaGallery 有明(東京)
- 2003 「世界の真上で」 art & river bank(東京)
- 2002 「隣の夢」 なるせ美術座(東京)
「周辺と周縁」 モリスギャラリー(東京)
「早送り、巻戻し、」 ZaGallery 有明(東京)
「ありさま」 マキイマサルファインアーツ(東京)
「ある」 藍画廊(東京)
- 2001 「あけすけ」 x 第4回アート公募 2000 審査員大賞展」 モリスギャラリー(東京)



- 2000 「モノローグ」 松明堂ギャラリー(東京)
- 1999 「煙の点」 ギャラリー現(東京)
「見えない部屋」 ガレリアラセン(東京)
「ものかたち」 なるせ美術座(東京)
- 1998 「周辺のかたち」 ギャラリー現(東京)
- <主なグループ展>**
- 2023 「開館1周年記念展 デザインに恋したアート♡アートに嫉妬したデザイン」 大阪中之島美術館(大阪)
「MOMAT コレクション」 東京国立近代美術館(東京)
近藤恵介 / 富井大裕 「あっけなく明快な絵画と彫刻、続いているわからない絵画と彫刻」 LOKO GALLERY(東京)
- 2022 「AGAIN-ST ルーツ/ツール 彫刻の虚材と教材」 武蔵野美術大学 美術館・図書館(東京)
「六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2022」 六甲山各地(兵庫)
- 2021 「constellation #02」 rin art association(群馬)
「MOMAT コレクション」 東京国立近代美術館(東京)
「シネマ展」 代田橋納戸/ギャラリーDEN5(東京)
- 2020 「部屋と庭 隔たりの形式」 武蔵野美術大学 美術館 展示室1(東京)
「練馬区立美術館開館35周年記念 Re construction 再構築」 練馬区立美術館(東京)
「都美セレクション グループ展 2020『描かれたプール、日焼けあとがついた』」 東京都美術館(東京)
「Mのたね」 武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス1F 共創スタジオ、MUJcom(東京)
- 2019 「引込線/放射線 Absorption/Radiation」 第19 北斗ビル(所沢、埼玉)
「時間/彫刻 -時をかけるかたち-」 東京藝術大学大学美術館 陳列館 1.2 階(東京)
- 2018 「メルド彫刻の先の先」 Maki Fine Arts(東京)
「Asian Art Award 2018 supported by Warehouse TERRADA -ファイナリスト展」 TERRADA ART COMPLEX 4F(東京)
「コレクションのススメ 2018」 カサヤの森現代美術館(神奈川)
- 2017 「アッセンブリッジ・ナゴヤ 2017『パノラマ庭園 -タイムシークエンス-』」 名古屋港~築地口エリア一帯(名古屋、愛知)
「引込線 2017」 旧所沢市立第2 学校給食センター(埼玉)
「新たな価値を与える行為展」 clinic(東京)
「ペバクラ展」 See Saw gallery(名古屋、愛知)
「下品展」 Art Center Ongoing(東京)
「AGAIN-ST 第6 回展覧会『平和の彫刻』」 NADiff A/P/A/R/T(東京)
「現代美術実験展示『パースペクティヴ(1)』」 インターメディアテク(東京)
「バズリアル」 Tojin シェアハウス(佐賀)
- 2016 「KABEGIWA 第16 回展『DM展(1)』」 hibit(愛知)
「つらなるかたち」 清津倉庫美術館(新潟)
「アートフェアキワマリ 2016」 水戸のキワマリ荘(茨城)
- 2015-16 「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋 -日本と韓国の作家たち」 国立新美術館(東京)、韓国国立現代美術館(果川館)(韓国)
- 2015 「引込線 2015」 旧所沢市立第2 学校給食センター(埼玉)
「カメラのみぞ知る」 viewing room Shinjuku(東京)
「単位展 -あれくらい それくらい どれくらい?」 21_21 DESIGN SIGHT(東京)
「エディション・ワークス Prints & Originals」 GALLERY SPEAK FOR(東京)
「メルド彫刻の先へ[彫刻と記録]」 前橋文化研究所(群馬)
- 2014 「複々線」 現代 HEIGHTS Gallery DEN(東京)
「METAPLAY, PRAHA - TOKYO」 ギャラリークリティーク(チェコ/プラハ)
「柳瀬荘アート・教育プロジェクト"アウェーゲームー -茶碗に勝てるか-"」 柳瀬荘(埼玉)
「愉快」 現代 HEIGHTS Gallery DEN(東京)
「開館20周年記念 MOT コレクション特別企画コンタクト」 東京都現代美術館(東京)
「Drawing03 -preference」 渋谷画廊(東京)
「道草」 現代 HEIGHTS(東京)
「AGAIN-ST 第4 回展『置物は彫刻か?』」 東北芸術工科大学(山形)
「開館20周年記念 -MOT コレクション特別企画クロニクル 1995-」 東京都現代美術館(東京)
「竹尾ペーパーショウ 2014『SUBTLE』」 TOLOT(東京)
「白川昌生 ダダ、ダダ、ダ 地域に生きる想像☆の力」 アーツ前橋(群馬)
「ニイガタ・クリエーション 美術館は生きている」 新潟市美術館(新潟)
- 2013 「ポップ&ウィーダ」 東京芸術大学 YUGA Gallery、立体工房(東京)
「ジェロニモ」 TURNER GALLERY(東京)
「MOT コレクション第2 部 つくる、つかう、つかまえる -いくつかの彫刻から-」 東京都現代美術館(東京)
「AGAIN-ST 第3 回展 Dependent sculpture -彫刻を支えるものは何か-」 東京芸術大学絵画棟1 階 アートスペース1(東京)
「引込線 2013」 旧所沢市立第2 学校給食センター(埼玉)
「マンハッタン太陽 光学芸術から熟学芸術への拡張:18 世紀から 21 世紀の"太陽画"の系譜」 栃木県立美術館(栃木)
「N+N 展 2013『アートにないないないばあ -アートの思考法-』」 練馬区立美術館(東京)
「シリーズ・川崎の美術 響きあうアート」 川崎市市民ミュージアム(神奈川)
「AGAIN-ST 第2 回展『首像』 - 自問するメディアとしての彫刻」 日本大学芸術学部アートギャラリー、A&D ギャラリー、Chika Ecoda(東京)
「Omnilogue: Your Voice is Mine」 シンガポール国立大学美術館(シンガポール)
「空似」 現代 HEIGHTS Gallery DEN(東京)
- 2012 「岡山芸術画廊」 岡山カルチャーゾーン一帯(岡山)
「第5 回 柳瀬荘アート・教育プロジェクト『アートと対話』」 柳瀬荘(埼玉)
「ジェロニモ」 ターナーギャラリー(東京)
「視差をしくむ」 FAL 武蔵野美術大学 2 号館 1 階(東京)
「開港都市にいがた 水と土の芸術祭 2012」(新潟)
「第1 回 AGAIN-ST 展」 東京造形大学 CS ギャラリー(東京)
「アウトレンジ 2012」 文房堂ギャラリー(東京)



- 「460人展」名古屋市民ギャラリー矢田(愛知)
 「RYUGU IS OVER!! 竜宮美術館は終わります」竜宮美術旅館(神奈川)
 2011 「ART & PRODUCT“アートとプロダクトの不穏な関係”」AI KOWADA GALLERY(東京)
 「岡山芸術回廊」岡山後楽園(岡山)
 「再考現学/Re-Modernologio phase 2: 観察術と記譜法」国際芸術センター青森(青森)
 「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」柳瀬荘(埼玉)
 「呼びとめられたものの光」名古屋ボストン美術館(愛知)
 「所沢ビエンナーレ美術展 2011 -引込線-」所沢市生涯学習推進センター、旧所沢市立第2 学校給食センター(埼玉)
 「横浜トリエンナーレ 2011 OUR MAGIC HOUR 世界はどこまで知ることができるか？」横浜美術館、日本郵船海岸通倉庫(神奈川)
 「新しい立体造形：富井大裕+照屋勇賢」旧ウォーク館（前橋美術館建設予定地）(群馬)
 「彫刻・林間学校 アースパウンド」メルシャン軽井沢美術館(長野)
 富井大裕+末永史尚「二人展」switch point(東京)
 「MOT アニュアル 2011 Nearest Faraway | 世界の深さのはかり方」東京都現代美術館(東京)
 「A POSSIBLE DIMENSION」PANTALOON(大阪)
 2010 「富永大尚+末井史裕+富田大彰+森井浩裕+末田史彰+森永浩尚」switch point(東京)
 「近藤恵介・富井大裕 あっけない絵画、明快な彫刻」Gallery Countach Kiyosumi(東京)
 「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」柳瀬荘(埼玉)
 「間戸/WIND-OW」MA2 Gallery(東京)
 秋田県大館市アートプロジェクト「ゼロダテ/大館 2010」大館市 大町商店街(秋田)
 「気象と終身 -寝違えの設置、麻痺による交通」アサヒ・アートスクエア(東京)
 2009 「第1回所沢ビエンナーレ美術展 -引込線-」西武鉄道旧所沢車両工場(埼玉)
 「アテンプト 2 矢櫃徳三・久家靖秀・富井大裕・ジャンボスズキ」カサヤの森現代美術館(神奈川)
 「Inside Outline 富井大裕+奥村雄樹」KABEGIWA(東京)
 「変成態 -リアルな現代の物質性」Vol.2 富井大裕x中西信洋「揺れ動く物性」ギャラリーαM(東京)
 「リニューアル」武蔵野美術大学美術資料図書館(東京)
 「壁ぎわ」現代 HEIGHTS Gallery Den(東京)
 2008 「BROKEN」TIME & STYLE MIDTOWN(東京)
 「5x5」万国橋ギャラリー(神奈川)
 アートプログラム青梅「空気遠近法・青梅-U39」青梅織物工業協同組合施設(東京)
 「ニューバランス」gallery Archipelago(東京)
 「DRAWING」TIME & STYLE MIDTOWN(東京)
 2007 「ニュー・ヴィジョン・サイタマIII 7つの眼x7つの作法」埼玉県立近代美術館(埼玉)
 「pre」switch point(東京)
 「壁ぎわ」KABEGIWA(東京)
 2006 「基準の技術」KABEGIWA(東京)
 「色と形」KABEGIWA(東京)
 2005 「12 DIVERS AT THE MOUNTAIN GATE」旧山口履物店(東京)
 「MATERIAL MIXTURE」node cube(東京)
 「芸術の山第0合/発刊準備公開キャンプ/立体編その1」NADiff(東京)
 「cat's heaven...!」gallery Archipelago(東京)
 「美術の星座 2005 Constellation of Art」ギャラリーくまい(東京)
 「字界へ -隘路のかたち-」長久手町文化の家(愛知)
 「深川 HO-BO アート 2」深川資料館通り商店街(東京)
 2004 「conran show」OKADA STUDIO(愛知)
 「floating scale - 『スケール』を巡る旅-」学食 2F(愛知)
 「space」U8 Projects(愛知)
 2003 「Small Works Exhibition」ZaGallery 有明(東京)
 「菜展」藍画廊(東京)
 「Jin Session 2003 Vol.4 “off topic”」ギャラリー一人(東京)
 「PC2003」ZaGallery 有明(東京)
 「アートと暮らす新世紀4 元気の素」ZaGallery 有明(東京)
 2002 「PC展」ZaGallery 有明(東京)
 「GALERIA RASEN session」ガレリアラセン(東京)
 2001 「minimum continuation // 継続」exhibit LIVE(東京)
 「GALERIA RASEN 2001」ガレリアラセン(東京)
 2000 「美術の星座 Constellation of Art 1998-1999-2000」なるせ美術座(東京)
 第4回アート公募 2000 ガレリアラセン画廊企画賞展「TRANSIT/経由・帯域」ガレリアラセン(東京)
 丹羽陽太郎x富井大裕「机上の空論」ギャラリーマロニエ(京都)
 「GALERIA RASEN select 2000 Vol.2」ガレリアラセン(東京)
 1999 木村裕x富井大裕「存在の家 -見知らぬ私のために-」メタル・アート・ミュージアム -光の谷-(千葉)
 「第4回アート公募 2000」新木場 SOKO ギャラリー(東京)
 「ほどけない神経の鍵穴」ギャラリー那由他(神奈川)
 「武蔵野美術大学大学院修了制作選抜作品展」武蔵野美術大学美術資料図書館展示室(東京)
 1998 「対話する器」ギャラリー那由他(神奈川)
 1997 富井大裕x丹羽陽太郎「Dramaturgie -すれ違う日常-」キッド・アイラック・アート・ホール(東京)

<主なパブリックコレクション>

東京国立近代美術館、東京
 東京都現代美術館、東京
 新潟市美術館、新潟
 練馬区立美術館、東京

**堀内 正和 (Masakazu Horiuti)**

- 1911 3月27日、父・堀内潔、母・寿賀の次男として京都市に生まれる。
- 1926 東京市雑司ヶ谷に転居。
- 1927 村山知義の著書から影響を受け、木と針金と白ペンキを用いて構成派風の作品を制作。
- 1928 東京高等工芸学校(現・千葉大学工学部)工芸彫刻部に入学。
- 1929 第16回二科展に《首》で初入選。東京高等工芸学校を中退し、番衆技塾で藤川勇造に師事する。
- 1933 胸部疾患のため制作を一時中断、療養する。
- 1936 第23回二科展ではじめて抽象彫刻を出品。
- 1937 7月、牧田淳子と結婚。
- 1938 アテネ・フランセでフランス語、ラテン語他を学ぶ(1944年まで)。
- 1940 この年から1945年まで作品発表を中断。翌年から1946年頃まで兎山敬一に哲学、芸術、宗教を学ぶ。
- 1946 第10回新制作派協会展に《淳子の首》を出品。
- 1947 第32回二科展に出品して復帰、同会彫刻部会員となる(1966年退会)。
- 1948 一時、家族と離れて寶光寺(横浜市中区桜木町)に寄寓、《行香》などを制作。
- 1950 京都市立美術大学(現・京都市立芸術大学)講師となる(1958年より教授、1974年に退任)。
- 1951 家族で渋谷区穂田(現・渋谷区神宮前)に転居。
- 1953 大和マネキンの依頼で《かげの美女たち(マネキン)》シリーズの制作を始める。
「抽象と幻想 非写実絵画をどう理解するか」展(東京国立近代美術館)に出品。
- 1954 この年から鉄熔接彫刻による幾何学形態の構成に取り組む。
- 1956 「世界・今日の美術」展(東京・日本橋高島屋)
- 1957 第4回サンパウロ・ビエンナーレに出品。1959 昭和34 48 この頃から円筒をもとにした彫刻を始める。
- 1963 神奈川県立近代美術館にて「堀内正和彫刻展」開催。《海の風》で第6回高村光太郎賞。
- 1965 この頃から穴から覗き見る仕掛けをもった「IKOZON 彫刻」を始める。
- 1967 「グッゲンハイム国際美術展」(ニューヨーク、グッゲンハイム美術館)に出品。
秋山画廊(東京)で個展。
- 1968 「Tricks and Vision」展 盗まれた眼 東京画廊(東京)に出品。
「蛍光菊(Fluorescent Chrysanthemum-Contemporary Art of Japan)」
(ロンドン、I.C.A、11月/カナダ、バンクーバー・アート・ギャラリー、翌年2月)に出品。
- 1969 第1回現代国際彫刻展(箱根彫刻の森美術館)で《立方体の二等分》が大賞。
- 1970 第2回神戸須磨離宮公園現代彫刻展で《円筒をななめに通り抜けるもう一つの円筒》が神奈川県立近代美術館賞。
「万国博美術展・調和の発見」(大阪、万国博美術館)に出品。
- 1971 第2回インド・トリエンナーレに出品。第4回現代日本彫刻展(宇部市)で《ななめの円錐をななめに通り抜けるもう一つの円筒》が神奈川県立近代美術館賞。
- 1973 ギン画廊(東京)で「堀内正和真面目小物展」開催。
- 1977 現代彫刻センター(東京・大阪)で個展。これに合わせて『HORIUTI 堀内正和作品集』が刊行される。
- 1978 神奈川県民ギャラリーで「堀内正和展」開催。
『アート・テクニク・ナウ10 堀内正和の彫刻』(河出書房新社)刊行(1995年に増補新版)。
- 1980 東京国立近代美術館で「日本の抽象美術のパイオニア山口長男・堀内正和展」開催。
- 1981 「日本近代彫刻の展開」展(神奈川県立近代美術館)に出品。
- 1985 碧南市文化会館で「堀内正和彫刻展」開催。
- 1986 渋谷区立松濤美術館で「堀内正和展」開催。現代彫刻センター(東京・大阪)、ギャラリー・TOM(東京)で個展。
- 1987 第28回毎日芸術賞を受賞。1988 昭和63 77 『札幌芸術の森叢書 現代彫刻集IV 堀内正和』(財団法人札幌芸術の森)出版。
- 1989 「幻の山村コレクション展」(兵庫県立近代美術館)に出品。
- 1990 評論、エッセイをまとめた『坐忘録』(美術出版社)出版。
- 1991 米子市美術館で「辻智堂・八木一夫・堀内正和展」開催。
- 1996 『ユーレーカ 堀内正和作品資料集成』(美術出版社)出版。
- 2001 4月13日、肺炎のため死去。
- 2002 府中市美術館市民ギャラリーで「彫刻家佐藤忠良・堀内正和展」開催。
「未完の世紀：20世紀美術がのこすもの」(東京国立近代美術館リネオナル記念展)に出品。
- 2003 「彫刻家堀内正和の世界展」開催、神奈川県立近代美術館、京都国立近代美術館、茨城県近代美術館、札幌芸術の森美術館に巡回。
- 2015-16 平成28 和書・洋書あわせて約4,000冊の旧蔵書が神奈川県立近代美術館の美術図書室に「堀内正和文庫」として寄贈される。
- 2017 彫刻作品、紙彫刻あわせて118点が神奈川県立近代美術館に寄贈される。
- 2018 神奈川県立近代美術館で「堀内正和展 おもしろ楽しい心と形」開催。
- 2023 ユミコチバアソシエイツ(東京)で個展。

【本展に関するお問合せ】 ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。

ユミコチバアソシエイツ

〒106-0032 東京都港区六本木 6-4-1 六本木ヒルズ ハリウッドビューティープラザ 3F

[Tel] 03-6276-6731 [e-mail] info@ycassociates.co.jp [website] www.ycassociates.co.jp [営業時間] 12:00-19:00 [定休日] 日・月・祝日